



Workplace3.0/サローネウフィーチョ

2015年ミラノサローネ国際家具見本市は、4月14日(火)から19日(日)まで開催します。隔年開催見本市のサローネウフィーチョは見本市名を“Workplace3.0”と改名し、特別展示は、2013年(前回)のジャン・ヌーベルの「プロジェクト:オフィス・フォー・リビング」に続き、2015年はミケーレ・デ・ルッキが監修します。

Workplace3.0 では、見本市会場というひとつの空間に、オフィス環境に必要な全てのアイテムを一挙に揃えてお見せします。(備品、オフィス用品、テクノロジー、照明、音響、空調など) 全てはターンキー・ソリューションをデザインする上でプロのニーズに応えます。(大手建設業者から中小規模デザインオフィスまで幅広く対応)

「テクノロジーは私たちの生活を全て変えた。自宅や車内、もしくは公園など、どこでも自由に仕事ができるようになった」と、ミケーレ・デ・ルッキが言うように、エキシビション・スペースでは、今日多様化するワークスタイルへ、デザインのアイデアやヒントをぎっしり詰め込んでいます。

新しい仕事のスタイルは日々変化しつつあり、それに伴った新しいタイプの仕事生まれ、それに合わせた快適なワークスペースと新しいデザインが求められています。現代のワークスペースは、より人との交流の場となっています。新しいエキシビションのコンセプトは、こういった時代の流れに適応させることに注目しています。

「サローネ・デル・モービレは新しいトレンドの発表の場だ」と、FLA Eventi社 オフィス家具部門長のマルコ・ブレダーリ氏はコメントします。「生産者とオペレーター、双方の需要に応えるべく、サローネ・デル・モービレは、ワーキングプレースを作り上げる中でのデザインとテクノロジーに注目し、新しい展示コンセプトの提案をする。」会場では出展者が相互に刺激し合いながら、この新しい取り組みに挑み、答えを見出していきます。

「ワークスペースは、頭を鍛える器具が備わったスポーツジム。人との関わり合いが新しいアイデアや可能性を生み出す。未来のオフィスは固定観念から解放されたライフスタイルで、常に新しいアイデアを追求する環境であるべき」と、ミケーレ・デ・ルッキ。

ミケーレ・デ・ルッキによる特別展示、“The Walk” は、Workplace3.0 パビリオン内の真ん中で、ワークプレースへのデザイン提案をターゲットに皆様をお待ちしています。

2014年12月 ミラノ

マルヴァ・グリフィン・ウィルシャー